

## 5. 沿岸漁業開発調査

舛田大作・山口功

沿岸漁業の振興と経営の安定に資するため、漁場有効利用のための定置網漁場調査及び定置網実態調査、未・低利用資源有効利用に関する基礎研究のための試験を行った。

### I. 定置網漁場診断

関係漁業協同組合等の要請を受け、図1に示した新上五島町岩瀬浦地先、西海市白瀬地先、小値賀町赤島地先の定置網漁場について海底地形精密調査と流況調査、五島市早房地先の定置網漁場について海底地形精密調査、平戸市館浦長瀬鼻地先の定置網漁場について流況調査を実施した。

併せて、西海市白瀬地先の定置網漁場について、ROVによる海底状況を観察した。

#### 方法

海底地形精密調査については、新上五島町岩瀬浦地先は6月1日、西海市白瀬地先は11月13日と2月16日、小値賀町赤島地先は2月22日、五島市早房地先は11月22日に、調査指導船ゆめとび（19トン、580馬力2基）を用い、海底形状はサイドスキャンソナーCM-2（C-MAX社製）で、水深は魚群探知機FE-651（フルノ社製）で、船位測定はDGPSシステム（Trimble社製、フルノ社製）で調査した。

流況については、中層に潮流計INFINITY-EM（JFEアドバンテック社製）を設置して、新上五島町岩瀬浦地先は6～7月、平戸市館浦長瀬鼻地先は8～9月、西海市白瀬地先は2～3月、小値賀町赤島地先は2～3月、平戸市館浦長瀬鼻地先は平成29年7～9月に、流況を1ヶ月間程度調査した。

#### 結果

関係漁協には、作成した漁場図や流況調査結果に基づいて、定置網漁場の評価等を報告する予定。

#### まとめ

今後も引き続き、要望に基づいて定置網漁場の診断を行う予定である。

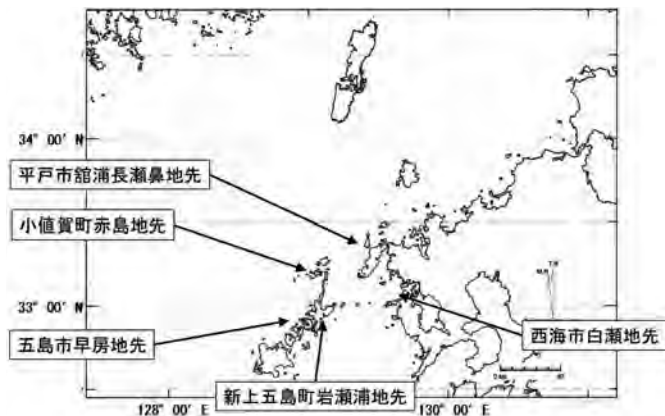


図1 定置網漁場調査箇所

(担当：舛田)

### II. 定置網調査

定置網の漁業就業者を確保育成することを目的として、定置網の漁業技術に関するテキストを長崎県定置漁業協会と共同で作成している。平成29年度は定置網のテキストに掲載するために必要な情報を得るため、現地調査を行った。

#### 方法

現地調査は、定置網の操業状況を把握するため県内の定置網漁場で行うとともに、漁具の仕立て作業については、漁具メーカーの工場内で行った。

#### 結果

定置網の現地調査は、平成29年5～12月に対馬と平戸、五島、長崎で9回実施した。漁具の仕立て作業の現地調査は、平成29年4～10月に諫早市と多久市、下関市で7回実施した。

#### まとめ

今後、現地調査で得られた資料を取りまとめ、長崎県定置漁業協会とともに定置網のテキストを作成する予定。

(担当：舛田)

### Ⅲ. 未利用資源の有効利用(イスズミ類漁獲試験)

藻場保全において植食性魚類の漁獲の重要性が高まっている中、イスズミ類は特に市場価値が低く、漁業の現場において漁具漁法の知見が少ない。このため県内の漁具漁法を調査するとともに、刺網とかごの操業試験を行い、イスズミ類の漁法の知見を集積した。

#### 方法

**現地調査** 駆除活動情報などを元に、対馬での聞き取りを行った。

**刺網試験** 複数の仕様の刺網を連結した漁具を用いて、対馬市美津島町鴨居瀬地先において平成29年4月に計2回、操業試験を実施し、反ごとに漁獲物を測定した。

#### 結果

**現地調査** 対馬中部西岸の植食性魚類捕獲作業において、イスズミ蛸集を視認した後に設置した刺網で大量

に漁獲したとの情報が得られた。

**刺網試験** 2回(延べ12反使用)の試験操業により、ノトイスズミ7尾(合計重量16.9 kg)を漁獲した。平成30年1、4月の操業試験についてモノフィラメント刺網の選択性曲線を求めたところ、目合の約3.5倍の尾又長のノトイスズミに対して漁獲効率が最も高いとの結果が得られた。

#### まとめ

藻場保全を目的とした植食性魚類の駆除活動におけるイスズミ類の漁獲情報を収集し、刺網試験では、モノフィラメント刺網の選択性について検討を行った。

特に、イスズミ類については漁法の情報が乏しいため、引き続きイスズミ類を含めた植食性魚類の漁獲情報収集を行う予定である。

(担当：山口)